

【訓練の目的】

- 「ラストマイルにおける支援物資輸送・拠点開設・運営ハンドブック」（平成31年3月策定）の検証
- 支援物資物流に関して過去の災害で示された課題に係る対応策に関する検証

【訓練の内容】(プル型支援を想定)

避難所の需要把握→在庫確認・物資調達→輸送手配 物資拠点への搬入→仕分け・保管・搬出→避難所への輸送

机上訓練

- 訓練参加者が相互にメールで物資調整や輸送手配に係る情報を伝達する。
- 必要に応じて、帳票作成。
- 事前に定められたシナリオに基づいて実施するが、帳票の作成においては、訓練参加者自身の判断も求める。



○訓練実施時期及び地域 令和2年1月 神奈川県小田原市、2月 広島県竹原市

実動訓練

- 市町村の地域防災計画等で定められている地域内輸送拠点等を活用。
- 物資の輸送、積卸し、拠点施設における物資の搬入・搬出、避難所への配送等を実施。

(車両からの積卸し)

(荷役機器を使った搬入)

(物資の保管)



【訓練の結果】

- ハンドブックに基づく手順・役割分担や、輸送の手配や物資拠点の運営を物流事業者に依頼することの有効性が確認された。
- 備蓄物資の数量(箱数・入数)、サイズ、重量等の情報をあらかじめ実測すること等により、整理しておくことが重要。
- 避難所の物資要請に関する進捗の把握が重要だが、メール及び帳票に示された文字情報のみでは容易ではなかったため、帳票番号とweb掲示板の分類機能によるメールを検索する仕組みを利用することで一定の効果が確認されたものの、どこまで進捗しているか等の把握が必ずしも容易ではなかった。
令和2年4月以降、内閣府の「物資調達・輸送調整等支援システム」の運用が開始されるため、進捗状況の把握方法等、習熟しておくことが望まれる。
- 代替荷役機器は施設によって使用できる機器が制限されることがあるため、物流事業者到庭先条件の評価を求める等により把握しておくことが望ましい。